

2013 年度 システム理工学部 教職部会 自己点検・評価報告書

A. 理念・目的

1. 現状の説明

本学では、創立以来の実学志向の理念を有している。こうした大学の基本理念のもとに、社会において信頼と尊敬を獲得しうる教員であるとともに、工学専門教育を基礎として数理科学に優れた、豊かな教育的実践能力を有する教員の育成を教職部会の理念としてきた。工科系大学として培ってきた優れた研究者や技術者の養成のための教育研究体制を基盤に、理工系分野の中等教育において創造性に富んだ個性的な教育を実践する人間性豊かな教員を養成することを目的として取り組んでいる。(資料1)

2. 点検・評価

毎年、各学年を対象とした教職ガイダンスを開催しているが、その際に理念・目的について口頭で説明している。

システム理工学部では教職課程の履修登録を1年後期からとしている。これは、半年間、本学での学生生活を過ごすことによって、大学での学習の意義を知り、教職課程の理念について十分吟味した上で、適切な履修計画を組み立ててもらおうと考えたからである。

3. 将来に向けた発展方策

今後は、さらに OB と在校生が交流できる機会を設けることによって、現在学んでいる専門的な教育が、中等教育の現場でどのように生かされているのかを学べるようにしていきたい。

4. 根拠資料

(資料1)『平成21年度 教職課程認定大学実地視察資料一覧 実地視察調査表』

B.教育内容・方法・成果

〈教育内容〉

1. 現状の説明

システム理工学部の専門教育を生かし、人間形成の幅広い教養と視点の獲得を目指すことを教育目標としている。具体的には、人間の成長や発達、教育の歴史や社会との関わり、また教科の内容や指導法の理論・技能、教職の実践的な知識や技術などについて系統的に学修することとしている。

2. 点検・評価

教職課程では、上記の目的に沿った教育を行うために、教職に関する科目を、1-4 学年を通してバランスよく配当している。

1 年次には「教職論」と、総合科目などに関する 4 科目、さらには選択の「教育の近代史」と「教育の現代史」を配当し、教職課程を履修することの意義について十分な時間を取る

よう配慮している。2年次には、教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育心理学」「道徳教育の研究」「特別活動の研究」「教育方法・技術論」を配当し、教職としての専門的な教養と実践力を養うようにしている。3年次にはさらに教科指導法の授業を2科目配当するとともに、「教育課程論」「生徒・進路指導論」「教育相談論」「教育社会学」を配当した。4年時には「教育実習」「教職実践演習」が配当し、これまでの取り組みの集大成とするとともに、さらに専門的な考察力と実践力を深めるよう促している。(資料2)

以上の取り組みにより、教職課程としてバランスのとれた科目配当とするとともに、専門科目の深まりと合わせて教職課程の学習も進行していくようにしている。こうしたカリキュラムの編成によって、各学科で学ぶ専門的な学習と、教職課程で学ぶ教育に特化した学習との結びつきについて考える機会を増やすことができると考えている。

また、学生たちが学習を計画的にすすめていくために、履修の仕方についても各種の資料を提供している。学生に配布している『学修の手引き』には、学科ごとに各教科の免許取得に必要な履修科目の一覧を掲載している(資料3)。また、教職ガイダンスにおいても、モデルとなる履修計画を示した(資料4)。2学年以降では、教職カルテに単位取得科目を記入していくことで、現在の履修状況を確認できるようにしている。また、このカルテは電子化し、入力内容を学生と教員とがともに確認することができるようにし、実際の指導場面における活用をすすめている(資料5)。介護等体験や教育実習の詳細については、ガイダンスと合わせて、教職課程で年3回発行している『教職だより』に掲載した体験記を通じて学生に伝達している(資料6)。また、大学HPでも年間計画を確認できるようにしている(資料7)。

3. 将来に向けた発展方策

これまで各学年の授業の配当を変更してきたが、学生たちの履修状況などをふまえて、常に最適なカリキュラム編成としていきたい。また、教職課程のカリキュラムは、教育に対する社会的な要求の変化を受けて、改正されることがある。こうした点をふまえて新しい科目の開設について計画していくこととする。今後も、文部科学省が示す教員養成教育のカリキュラム変更に応じて、適切な内容のカリキュラム編成をすすめていくこととした。

4. 根拠資料

(資料2) 2013年度新入生教職ガイダンス配付資料、3ページ

(資料3) 『2013年度 学修の手引』、26-30ページ

(資料4) 2013年度2年生教職ガイダンス配付資料、1-2ページ

(資料5) 「SIT STATION 内 TALENT 教職関連 教職カルテ」
<https://station.sic.shibaura-it.ac.jp/station/>

(資料6) 『教職課程だより』26号、2012年9月発行、2-6ページ

(資料7) 「芝浦工業大学ホームページ内 教職課程 教職課程年間スケジュール」

〈教育方法〉

1. 現状の説明

シラバス 15 週の授業構成において、達成目標を設定し、予習・復習等の課題明示を行うことにより、学生の自主的な学修を促し、支援を行っている(資料 8)。

また、授業の実施面では、授業内容に関連づけられた小レポート、実験・実習の報告書の作成などを通して教員に必要な表現力を育成するとともに、討議やグループディスカッション、模擬授業などを取り入れることによって、プレゼンテーション能力の向上を図っている(資料 8)。

2. 点検・評価

教職課程においては、教育実習生の実践力の形成に力を入れてきた。教科指導法の授業の時間内では、すべての学生が、模擬授業を行うことができないため、実践的な教育機会において、その能力を養うことができない。そのため、本学では、事前指導の時間においても、すべての学生に模擬授業を行わせることによって、実際に授業を組み立てる企画力について学ばせている。また、事前指導では、現場の教員を招き、大学の中だけでなく、外部から見ても必要な力量を形成するよう促している。

教育実習から戻ってきた後に行う事後指導では、報告書の作成を行い、他の教育課程履修者や教員とも経験を共有するとともに、その内容について点検を受けることとなっている。(資料 9)また、教職実践演習では、そうした教育実習の経験について、グループによる検討と、他グループでの合同の検討を通して、今後の教員として意識すべき課題を明らかにするよう取り組ませた。

さらに、教職課程では、学生に自主的な学習を促すことを目的として、5号館2階に教職コーナーを開設している。ここには、各自治体の教員採用試験情報を掲示するとともに、教職志望者のための各種のガイダンスや、外部の説明会のお知らせなどを掲示している。また、教職に関する雑誌や、各自治体の教員採用試験問題も備え付けて、学生たちが将来のキャリアに向けた学習ができる環境づくりをすすめている。

学生の学外の活動についても自主的な活動をサポートするよう取り組んでいる。現在、高校生を対象とした補習授業に学生を派遣し、学習ボランティアの経験を積ませている(資料 10)。また、学外の子童福祉機関へのボランティアの派遣についても、さいたま市適応指導教室に希望者を送り出すなど、教職に関わる実践的な取り組みを支援している(資料 11)。

3. 将来に向けた発展方策

学生たちに教育に関わる実践的な資質を身に付けてもらうことを目的として、外部講師の積極的な活用や、学校見学を行うことによって、通常の講義内容と現場における実践的な技術・知識とを結びつけていきたいと考えている。今後は、授業と連動したボランティ

ア活動などを積極的に推進していくことも計画している。

事前・事後指導、教職実践演習などでは、併設中学校・高校との連携を図っていくことにより、現場の課題を取り入れながら、学習をすすめていくことのできる体制を作っていくきたい。上記のサポートをお願いしている併設校とは、教職実践演習に関する話し合いをすすめる、教育実習生の質保障に努めることを計画している。

4. 根拠資料

(資料 8) 「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部教職」

<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900351.html>

「芝浦工業大学ホームページ内 シラバス検索システム システム理工学部総合科目」
<http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/syllabus/2010/Matrix900311.html>

(資料 9) 芝浦工業大学教職課程『教育実習事後指導 教育実習報告』2013 年 7 月

(資料 10) 浦和工業高校学習アドバイザー募集のお知らせ

(資料 11) 2012 年度さいたま市適応指導教室でのボランティア実績

<成果>

1. 現状の説明

今年度は、システム理工学部が教職課程の認可を受けて 5 年目にあたる。昨年度の卒業生のうち教職志望者は 30 名いた。このうち 28 名が、中学高校の教員（非常勤も含む）となっている(資料 12)。

教職課程の登録者は、システム理工学部の教職履修が開始される前年の 2008 年の履修登録者が 79 名なのに対し、システム理工学部での教職履修が開始された 2010 年には 191 名、1 年次では 189 名の登録があった(資料 13)。2013 年 9 月現在、システム理工学部において教職課程に登録した学生は 4 年生で 112 名、3 年生では 102 名、2 年生では 99 名となっている(資料 14)。上記の教職課程登録者はシステム理工学部の 2~4 年次在籍学生の 20%にあたる。

3 年の後期から教員採用試験の対策講座を開講している。これらの講座によって、実際に教員として働くための心構えや、仕事の内容について知り、将来の進路選択の参考にするとともに、教員採用試験の準備をすすめるよう促している。

2. 点検・評価

本学において教職課程が工学部のみを設置されていた当時と比べて、教職課程の履修者と教員志望者が大幅に増加した。今年度のシステム理工学部の教育実習登録者は、43 名となっており、2014 年度の教育実習予定者は 42 名となっている。また、現時点での教員希望者は確認できているだけで 21 名である。ここで挙げた在籍学生の教員希望者、教員免許取得見込者は、工学部単独で教職課程を開講していた時点と比べて大幅に増加している。

キャリアサポート課では、教員採用試験の準備や、各種の試験に関する学生からの相談

に応じるようにしている。本年度に入って、6月には3年生を対象とした「教員採用試験対策スタートガイダンス」を、8月には二次試験の対策講座を、9月には私立中高教員の説明会を行った。

本学では、埼玉県、横浜市、川崎市、大阪府、大阪市、京都府、京都市、神戸市の中・高の数学・理科の教員（自治体により中学のみもある）と、身体に障害のある者に限定された神奈川県各教科の教員に推薦枠をいただいている（資料 15）。近年こうした制度を採用する自治体が増えつつある。今年度は、システム理工学部では埼玉県の中学校の数学教員、横浜市の中学校の数学教員に学校推薦を行った。

3. 将来に向けた発展方策

中等教育における理数系の教員養成機関に期待されている役割を受け止め、実際に現場で活躍できる教員を送り出していきたいと考えている。今後も、教員採用試験の対策を目的とした講座の点検を随時行い、学生のニーズに応じた取り組みをすすめていくようにしたい。

教職課程の履修登録をしてから教員採用試験を受験するまで、学生の様子を総合的に把握できるようにするために、教職課程の整備をすすめ、工学部、システム理工学、デザイン工学部の教職課程教員、豊洲、大宮、田町の学生課、ならびにキャリアサポート課の連携を強めていくこととしたい。

また、進路に関してはキャリアサポート課と連携し、教職に関わる多くの情報を掲示するとともに、採用試験のための対策や相談の機会を増やすようにしていくこととしたい。さらに、このような取り組みを、学生たちに周知することにより、早くから将来に対する意識を高め、高いレベルでの学習に取り組ませていくこととしたい。

さらに、今後は、教職課程の履修者が増えることをふまえて、教職課程履修者のOB会を組織して、現職の教員と教職課程を履修する学生とが交流できる機会を設けていくこととしたい。

4. 根拠資料

（資料 12）「2012 年度教員採用内定状況」

（資料 13）学生課「教職履修登録集計資料」

（資料 14）「SIT STATION 内 TALENT 教職関連 教職カルテ」
<https://station.sic.shibaura-it.ac.jp/station/>

（資料 15）「H26 年度教員採用試験大学推薦の掲示 2013_4_12」、「H26 年度教員採用試験大学推薦の掲示 2013_4_30」

C. 内部質保証

1. 現状の説明

教職課程においては、先に示した部会の理念・目的を実現するための、教育の質については定期的に行われる教職課程会議において確認している。教職課程の現況に対する評価を公表するにあたっては、この会議の検討内容をふまえて自己点検・評価報告書の作成を

行っている。

2. 点検・評価

教職課程に関わる授業、ならびに課外活動を振り返り、教職課程の活動を現況のまとめに反映した。また、自己点検・評価報告書の作成を通して、教職課程の現況について教員間で相互点検を行うよう取り組んでいる。

現在は、学部全体で行っている授業アンケートの結果から、各自の担当する授業が学生のニーズにこたえるものとなっているかどうかについて確認している。ただし、教職課程独自のアンケートは行っていない。

また、年度末に教育職員免許状交付式において配布される『芝浦工業大学教職課程を終えて』という冊子に、教員免許状取得者に4年間の教職課程を振り返った原稿を寄せてもらっている(資料16)。ここで4年間を通して明らかになった課題について確認できるようにしている。

3. 将来に向けた発展方策

今後も、授業アンケートの結果には注意することとしたい。また、教職実践演習において、教職課程の受講について振り返ってもらい、教職課程全体の進行に関して見直しをすすめていくこととしたい。

4. 根拠資料

(資料16) 芝浦工業大学教職課程『平成24年度芝浦工業大学教職課程を終えて』2013年3月